

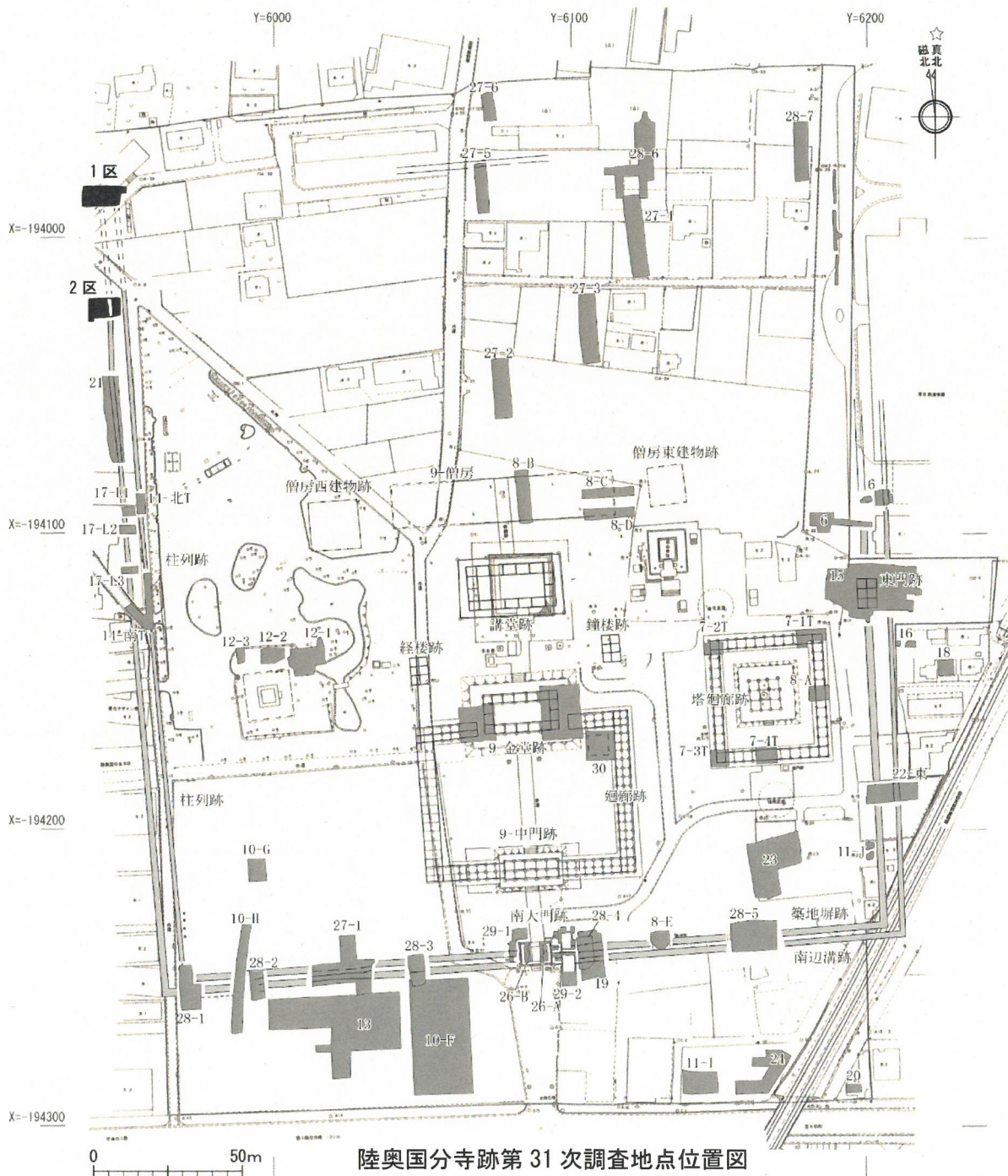
陸奥国分寺跡第 31 次調査の成果について

1. 調査要項

調査地点 仙台市若林区木ノ下3丁目3, 10 調査期間 令和3年6月3日～7月20日
 調査面積 1区：70㎡、2区：60㎡

2. 調査概要

寺域の北辺ラインの確認を目的に北西部2ヶ所で調査を実施した。1区（北側）では井戸跡1基、ピット6基が確認されたが寺地を区画する施設は確認されなかった。2区（南側）では寺地西辺を区画すると推定される溝跡1条の他、土坑1基が確認された。調査結果から北辺ラインは1区と2区の間には存在していた可能性が考えられる。遺物は平瓦、丸瓦、土師器等がテン箱2箱出土した。





1区全景 (南から)



2区全景 (南から)

郡山遺跡第 313 次調査の成果について

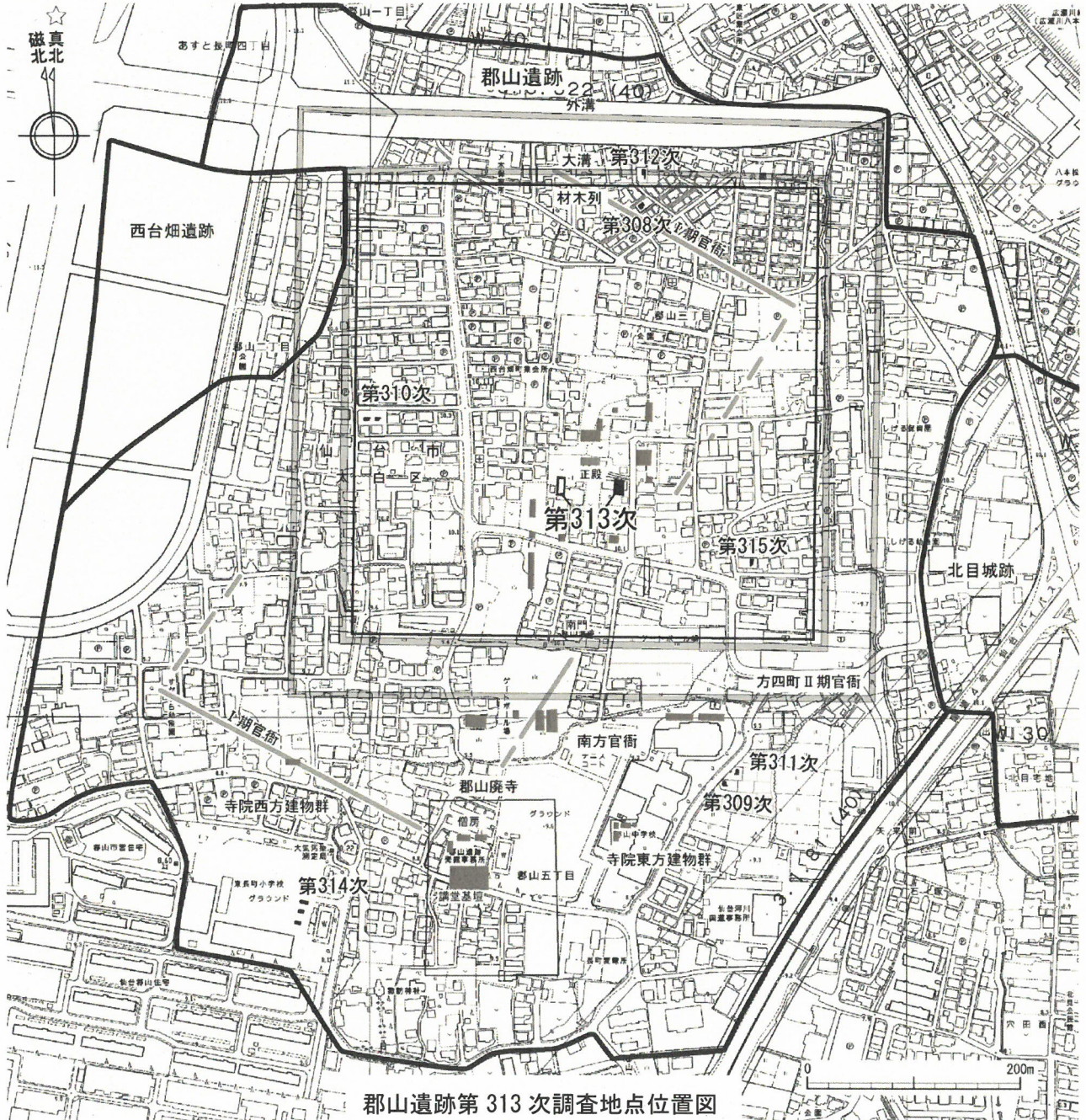
1. 調査要項

調査地点 仙台市太白区郡山 3 丁目 19 調査期間 令和 3 年 8 月 18 日～10 月 19 日

調査面積 1 区 : 144 m², 2 区 : 150 m²

2. 調査概要

方四町Ⅱ期官衙の政庁域における建物配置の検討を目的として調査を実施した。1 区（西側）では第 107 次調査で確認されていた西脇殿跡（SB1545）の規模確認のため調査区を設定し、桁行 6 間、梁行 2 間（総長 12.6m×4.5m）であることが判明した。2 区（東側）は正殿と南門を結んだ南北中軸線を挟んだ 1 区の対象地点に調査区を設定した。調査の結果、西面に廂の付く建物跡を検出したが、これまで推定していた、正殿を中心とした左右対称の建物配置がなされていないことが判明した。Ⅱ期官衙の建物跡 2 棟の他に、Ⅰ期官衙の板塀跡 1 列、建物跡 3 棟も各区で確認された。なお遺物の出土は僅少である。





1区全景 (南から)



2区全景 (上が北)